

平成24年8月29日

特 殊 報

長崎県病害虫防除所長

平成24年度病害虫発生予察 特殊報第1号

- 1 病害虫名 スモモ^{ふいり}斑入果病
- 2 病原体 ホップ矮化ウイルス plum 系統
Hop stunt viroid - plum (HSVd - plum)
- 3 発生作物 すもも
- 4 発生場所 長崎市
- 5 発生確認の経過

平成24年6月中旬、施設栽培のすもも(品種:大石早生)において果実にキリンの斑紋に似た斑入果の症状が発生した。そのため独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 果樹研究所に同定を依頼した結果、本県では未発生のホップ矮化ウイルス plum 系統が検出された。

本病は、1985年に山梨県で初確認され、その後、福岡県、福島県および島根県で発生が報告されている。

- 6 病徴

症状は果実にのみ認められ、葉や新梢には発生しない。大石早生、サンタローザ、太陽等の品種では果面が斑入果症状となり(図1) 完熟するとやや不鮮明となるが、果粉の形成は薄くまだらとなる。ソルダムでは斑入果の症状はみられないが、果粉の形成が薄く、成熟期の果肉は硬く黄色がかり、成熟期になっても鮮紅色とならず黄果症状となる。

熟期は健全樹よりも7~10日程度遅れ、果肉は硬く締まり軟化が遅れ、食味が悪くなる。なお、病徴は高温時期に激しくなる傾向がある。



図1 果実の斑入症状(品種:大石早生)

- 7 伝染方法

- (1) 接木や樹液の接触によって起こるため、感染樹からの採穂により苗木を育成したり、高接ぎすると伝染する。
- (2) 剪定はさみや鋸等の刃物を使用する管理作業によっても汁液伝染が起こる。

- 8 感染植物

本ウイルス plum 系統の自然感染が確認されているのは、すももだけである。

- 9 防除対策

- (1) 発病園からは穂木を採取しない。
- (2) 発病樹は伐採し、健全な苗木を植栽する。
- (3) 剪定等に用いるはさみや鋸等は、水酸化ナトリウム5%液とホルマリン15%液の混合液、または塩素系漂白剤(次亜塩素酸ナトリウム含有)の消毒液に10秒間浸漬し、水洗して用いる。
- (4) その他
本病と疑われる症状が発生した場合は、病害虫防除所や最寄りの振興局に連絡する。

病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>
この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。
長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027